

知床五湖（一湖）外来水生植物の除去について

近年、知床五湖の一湖において、外来水生植物であるスイレンの繁茂が著しくなっている。一湖は、高架木道の終点に位置し、知床国立公園を代表する主要展望地であるが、スイレンにより知床連山が湖面に映る特徴的な景観が失われつつある。

このため、以下のとおり、一湖の水生植物について調査を実施するとともに、スイレンの除去方法について専門家の意見を伺った上で、別途作成する除去作業計画に基づき、スイレンの除去を実施することとしたい。

(1) スイレンの除去目的について

- ・湖面に映る知床連山景観の保全
- ・ネムロコウホネ等の在来水草群落の保全

(2) 2023 年度のスケジュール（案） ※

3月 知床五湖のあり方協議会において、今後の除去の進め方について協議 ※今回

5月～6月 専門家ヒアリング

6月～7月 水面調査（スイレンの分布範囲と在来水草群落の現状把握）
除去範囲の決定及び除去作業計画案の作成

7月～8月 除去作業の試行（1回目）

9月 経過観察（必要に応じて、2回目の除去作業の試行を検討）

10月以降 次年度に向け、除去作業計画の確定（詳細は事務局にて決定）

※今回会議での意見や専門家の意見を伺いつつ、スケジュールの見直しを行う。

※人力による作業となるため、除去作業は複数年にわたることが想定されるが、スイレンの生育状況や作業方法等に応じて、除去作業計画の見直しを行う。

※除去に係る自然公園法の手続きは、ウトロ自然保護官事務所にて実施する。

(3) 専門家ヒアリングの候補者

- ・内田 暁友（知床博物館元学芸員、植物の専門家、北海道フラワーソニアドバイザー）
- ・角野 康郎（神戸大学教授、理学研究科生物学専攻、水生植物に関わる各種研究を実施）
- ・その他、科学委員会委員による助言等も得ていくこととする。

(4) 調査・除去作業の方法

人力による運搬が必要となることから、ゴムボートを用いて人力による調査、除去作業を想定する。

(5) 作業実施体制（案）

除去作業の実施体制を構築するに当たり、以下の関係者に協力を依頼する。

【知床五湖園地管理者（環境省・北海道・斜里町）、知床財団、公園財団、知床五湖登録引率者、知床地域関係者（羅臼側含む）】

<参考：2018年及び2022年の湖面状況>

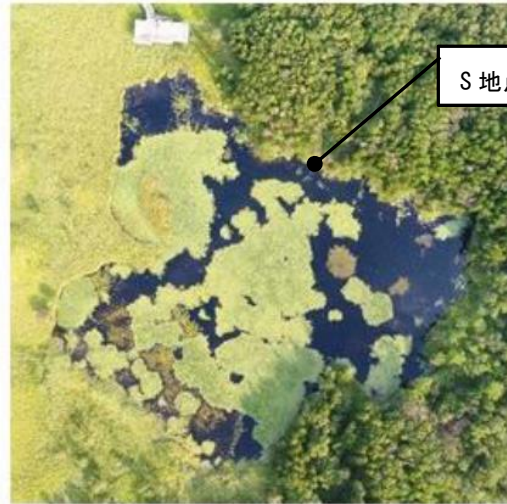
ドローンによる過去の写真とからは、植被率が高まっている様子が確認できる。

※知床五湖モニタリング試行調査として知床財団が実施。

2018年9月6日



2021年8月22日



S 地点（一湖展望地）